

## 就任の辭

龍南垂千の諸兄が若き心の叫びを傳ふべき重き任を負ふに至つた我等は何よりも強い喜悅の情に溢れずには居れぬ。けれども、我等は此の大なる欣びが全様に大なる責任に依つて裏付けられてあることを忘れはしない。殊に二十有余年の尊い龍南文壇の歴史を背景としてゐる我部の現在と、此の永い歲月の間に我が部の諸兄が盡されたる多大の努力の當然の歸結として我等が今日より享樂せんとする我部の地位とを意識する時に、我等はその使命の餘りに大なるに比して、我等の實力の餘りに小なるを痛感せざるを得ないのである。

遺莫我が部自身も亦、その全存在が、龍南といふ一のアトモスフィアの兒であるが故に、我等の晦きは諸兄の理性に依りて明るくせられ、我等の弱きは諸兄の精力に依りて強くせられ、我等今日の不安なる榮は諸兄の限り無き可能性に依りて、懸て、明日の安固なる歡びと化せられ得るものであることを確信し且期待して止まない。(信)